

平成28年度

県内大学生が創る 奈良の未来事業ジャーナル

JOURNAL of Projects from University Students



contents

- P2 「県内大学生が創る奈良の未来事業」の概要
- P3～4 平成28年度 受賞政策提案の事業化に向けた検討状況
- P5～7 平成27年度 受賞政策提案の事業実施状況
- P8 これまでの受賞政策提案一覧



奈良県

県内大学生が創る 奈良の未来事業



「未来は予測するものではなく、創るもの」
という言葉信じ、専門的な知識や
新たな視点を持つ大学生の皆さんと
「奈良の未来」を共に創ります。

概要

奈良県では、平成24年度から「県内大学生が創る奈良の未来事業」を実施しています。

この事業は、多様化・複雑化する県政のさまざまな課題を解決するため、県内の大学等に在籍する学生の皆さんから政策提案を募集し、皆さんから応募いただいた政策提案のうち、公開コンペ方式により選ばれた提案を事業化し、大学生の皆さんにも参加いただいて事業を実施するものです。

平成28年度の政策提案 応募状況について

平成28年度は、23の政策提案がありました。さまざまな分野の視点からの政策提案があり、提案内容は多岐にわたりましたが、書類選考による事前審査の結果、本審査に8グループの参加が決定しました。



平成28年度 最優秀賞受賞政策提案「農地の窓口」

本審査の概要

平成28年7月20日（水）に、奈良県議会棟本会議場で、本審査を開催しました。本審査は公開コンペ方式で行われ、事前審査を通過した8グループが、約80名の傍聴者を前にプレゼンテーションを行いました。県政が抱えるさまざまな課題についての政策提案があり、どのグループの発表からも、奈良県の将来を考える真剣な思いが伝わってきました。

大学生ならではの発想力と高い専門性を生かした政策提案ばかりで、審査は難航を極めました。審査委員10名により、新規性、実現可能性等の項目について審査を行った結果、最優秀賞1グループ、優秀賞2グループが決定しました。審査委員長を務めた荒井知事からは、「8つのグループ全てが大変優秀で、点数は僅差であった。最優秀賞、優秀賞以外の政策提案についてもすばらしいアイデアであるので、今後、形は変わっても実現できるよう、事業化の検討をさせていただくことを、審査委員会で決定した。奈良県が少しでも良くなるよう、アイデアを実現していきたい。」と講評がありました。



平成28年度 優秀賞受賞政策提案
「女子大塾～女子大生による県南部学習支援～」



平成28年度 優秀賞受賞政策提案
「Sight Feeling NARA 感じてみつけ！あなたの奈良 魅力再発見プロジェクト」

平成28年度 受賞政策提案の事業化に向けた検討状況

平成28年度に最優秀賞、優秀賞を受賞した政策提案について、政策提案した県内大学生と県の担当者によるプロジェクトチームを設置し、平成29年度の事業化に向けた検討を行いました。



農地の窓口

検討状況

事業化にあたっては、奈良県農業の今後の新たな担い手候補に対し、モデル的な農地利用や農業生産、農業経営を示して県内への就農意欲を喚起するため、県内耕作放棄地を再生し、農園として有効活用することを検討しました。

この農園では、奈良県と近畿大学が中心となり、市町村等の関係機関とも連携しつつ、農産物の生産や販売を試

み、新規参入者が自立的に経営できる方法等を検討します。これらの結果を活用することで、多くの方々が今後、奈良県内で就農していくことをサポートしていきたいと考えています。



本審査での発表の様子



本審査での質疑応答

大学生からの声



中井 隆教
近畿大学農学部
農業生産科学科
3年

政策提案のきっかけは、農業法人のインターンシップに参加したことでした。その農業法人の社員の方は、農業法人がある地域で将来独立したいと考えておられましたが、独立する予定の農地がほとんど森と一体化した耕作放棄地で、大変苦労しておられました。このような経験から、新規就農者や農業に興味がある人がもっと簡単に農業を始められないだろうかと思う、本事業を提案するに至りました。

事業化を検討する中では、さまざまな機関に調査訪問させていただき、貴重なお話を聞かせていただきました。耕作放棄地の増加、少子高齢化、雇用の減少などが進む問題は、もはや奈良県だけでなく、全国的に深刻な問題になっています。今回の政策提案の事業を通じて、少しでもこの問題を改善するために、各機関と連携しながら、事業実施に向けて準備を進めています。



Sight Feeling NARA
感じてみつけ！あなたの奈良
魅力再発見プロジェクト

検討状況

事業化にあたっては、奈良観光をより充実させるため、五感に訴える体験型観光の在り方を検討しました。奈良県には、従来型の見ている観光では気づかない魅力ある場所が多くあり、そのような場所を紹介するマップの必要性が高まっていることから、奈良公園やならまちを対象として体感できる観光マップ（触れる編・感じる編・味わう編）を作成する予定です。



本審査での質疑応答

（P4に続く）

大学生からの声



金村 麗華
奈良女子大学大学院
人間文化研究科
住環境学専攻1年

視覚障がい者の方と奈良市内を一緒に観光した際に、自分と違った楽しみ方をしているという発見があったことから、この政策提案事業に応募しました。これまでの観光は「見る」ことで満足してしまい、観光の表面しか見られていなかったのではないかと気づくことができました。歴史があり文化があり、独特な空気感を持ち、自然も豊かな奈良だからこそ、見るだけでなく、触れてみたり、空気を感じてみたり、さまざまな経験ができると考えました。

そこで、この提案では、私たちが今まで見逃していた奈良の魅力をさまざまな人の意見を聞きながら再発見し、広めていくことを目的に準備を進めてきました。事業化に向けては、県の担当者の方々と数多く検討を重ね、現地に出向きながらマップ作成を進めて、より良いものができるように頑張りたいです。

優秀賞

女子大塾～女子大生による 県南部学習支援～

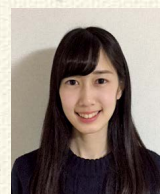
検討状況

事業化にあたっては、南部・東部地域の小・中学生が多様な教育の機会を得ることができるよう、大学生によるさまざまな学習支援プログラムを提供することを検討しました。学校と連携して、6日間程度の長期教育プログラムと2日間程度の短期プログラムを織り交ぜ、小・中学生に対する学習支援等を行い、学習意欲等の向上を図る予定です。



本審査での質疑応答

大学生からの声



小澤 初葵
奈良女子大学
生活環境学部
住環境学科4年生

私が所属する研究室では、昨年からは野迫川村で長期休暇を利用した学習塾を開催してきました。私たちの学習塾はニュースや新聞で取り上げられ、それらを見てくださった他の自治体の方々から同じような学習塾を依頼されたことで、多くの過疎地域で学習塾が必要とされているのだと知り、大学生である私たちに何かできることはないかと考え、この事業を提案するに至りました。

事業化が決定した際には不安もありましたが、学習塾を喜んでくれる子どもたちの笑顔を思い出し、県担当者の方など多くの方々との協力もあり、本格始動にむけて準備を進めています。来年度は、県内他大学とも連携しながら基盤づくりを行い、ゆくゆくは県南部・東部の多くの地域で、子どもたちの学習支援に尽力したいと考えています。

女子大学生のための キャリア形成プロジェクト

審査委員会において、最優秀賞、優秀賞以外の政策提案についても、県の担当部局で事業化の検討をすることが決定されたことを受けて、奈良女子大学の学生から提案いただいた政策提案「女子大学生のためのキャリア形成プロジェクト」についても、プロジェクトチームを設置し、事業化に向けての検討を行いました。

審査委員会において、最優秀賞、優秀賞以外の政策提案についても、県の担当部局で事業化の検討をすることが決定されたことを受けて、奈良女子大学の学生から提案いただいた政策提案「女子大学生のためのキャリア形成プロジェクト」についても、プロジェクトチームを設置し、事業化に向けての検討を行いました。



事業化にあたっては、県内女子大学生が自身のキャリアについて考え、ライフプランを具体化し、また、奈良県で就職し、働き続ける意識を培うための取組について検討しました。今後は、女性の多様な働き方や生き方を学ぶキャリア形成講座や、県内企業に関する知識を深めるための就職イベントやインターシップを実施する予定です。

平成27年度 受賞政策提案の事業実施状況

平成27年度に最優秀賞、優秀賞を受賞した政策提案について、大学生の皆さんにも参加していただき、平成28年度に事業として実施しました。

最優秀賞

奈良の将来の医療と介護をつくる多職種学生の集い事業
政策提案名（緊急課題！奈良の将来の医療をつくる多職種医療学生の集い）

実施状況

医療、介護、福祉など多職種の学生が地域包括ケアシステムを担うための教育を、学生主体で行いました。



多職種による合同勉強会



都祁診療所での実習（ケアプランの作成と発表）

4月から、多職種による合同勉強会を毎月1回程度開催し、専門職による講演や事例検討を通して、各職種の役割について理解を深めました。8月には、県内外の在宅医療等の現場を訪問し、県の現状や県外の成功事例について学ぶ実習を行い、40名以上が参加しました。3月には、専門職と学生が多職種連携教育について考えるシンポジウムを開催しました。

大学生からの声



中森 滉二

奈良県立医科大学
医学部医学科
4年

私たち「Naraアイベック（奈良の医療介護の連携を考える学生の会）」は、将来の地域包括ケアシステムの中で活躍する人材を育成することを目的にこの事業を提案し、今年度から、奈良県内の医療・介護・福祉系学生を対象に、多職種連携による問題解決のプロセスを学ぶための勉強会や実習を行っています。

事業を実施していく中で、徐々にお互いの視点の違いに気づき、多職種のチームの中で各職種が必要不可欠な役割であるという認識が高まってきたように思います。また、回を重ねる毎に参加者同士の仲も深まり、職種間に垣根のない人間関係が生まれていると感じています。このような経験の中には、先入観が少ない学生だからこそ得られたものもあると思います。将来、現場に出た時に、この活動を通して得た仲間や経験が必ず役に立つと確信しています。

最後に、本事業を実施するにあたり、多くの方々のご理解とご協力をいただき、心より感謝しています。

最優秀賞

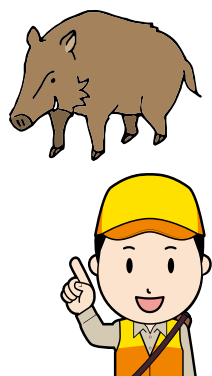
若手狩猟者確保育成事業

政策提案名（女子大生ハンティングサークル（狩りガール））

実施状況

大学生を中心としたハンティングサークルを結成し、狩猟に関する多様な活動を通して、南部地域の振興、狩猟文化の継承、若手狩猟者の確保に貢献する活動を展開しました。

野迫川村を活動の拠点とし、地元猟友会等にご指導いただきながら、山を歩き、鳥獣の生態、わな猟の基礎から獲物の解体までを学びました。さらに、狩猟文化の習得と継承のため、わな猟免許の取得や狩猟マップの作成を行いました。また、野生鳥獣の肉を使ったレシピの開発を重ね、「奥大和ゆゆう祭」でブースを設置してジビエ料理の提案を行ったほか、狩猟の魅力や役割を発信するため、狩猟体験ツアー等も実施しました。



（P6に続く）



野迫川村における狩猟体験ツアー（猟具（箱罠）について学ぶ）



ブースにてジビエ料理を提案（奥大和ゆうゆう祭）

大学生 からの声



竹村 優希

奈良女子大学大学院
人間文化研究科博士
前期課程住環境学
専攻2年

気がつけば事業も学生生活も終盤に差し掛かり、振り返ると、「女子大生ハンティングサークル」なしでは語れない大学院生活でした。この提案は、生き物の命を扱うこともあり、賛否両論があると思います。事業化に向けて、準備段階からさまざまな意見をいただき、事業内容の是非やあり方について悩み考えることもありました。サークルのメンバーや奈良県、野迫川村の方々のサポートのおかげで、事業を前へ進めていくことができました。事業の実施を通じて得た多くの方々との出会いは、私にとって一番の収穫です。

また、主体的に進める中で、狩猟に限らず、さまざまな社会的課題についても考える機会を持つことができました。「地域活性化とは何か」という問いについて、自分なりに導き出した考えを、残念ながら事業に反映するまでには至りませんでした。が、今後の社会生活の中で表現していきたいと思っています。



不登校児童の支援方法について考える研修会

実施状況 多様な不安や悩みを抱える児童を支援する取組として、県内の小学校のニーズに合わせて、将来スクールカウンセラーや教員を志す大学生をボランティアとして配置しました。それぞれの学校に合わせて活動内容は異なりますが、授業中に児童の横に座ってアドバイスをしたり、保健室で声かけを行うなど、大学生ボラン

優秀賞

大学生等による

不登校児童生徒支援事業

政策提案名（不登校の子どもたちに大学生ができること―大学間の垣根を越えて―）



小学校で児童にアドバイスを行う大学生ボランティア

ティアが不登校傾向にある児童の精神的な支えとなるよう、児童に寄り添った活動を展開しました。平成29年3月現在で、延べ28人の大学生ボランティアが、25校の小学校で活躍しています。また、3月には、シンポジウムを開催し、大学生ボランティアが活動報告を行いました。

（P7に続く）



大学生
からの声

亀田 凌雅

帝塚山大学
心理学部心理学
2回生

2回生になってすぐの頃、大学の学生からの政策提案により、この事業を実施していることを知りました。将来、臨床心理士を目指している私は、以前から、不登校や教室に入りづらく感じている子どもへのサポートをしたいと思っていたので、すぐに大学生ボランティアとして登録しました。

7月から実際に週1回、小学校で活動するようになり、9月からは週2回訪問しています。私が担当しているのは、1年生のクラスで、教室内外での活動を支援しています。最近では、最初の頃と比べて、子どもたちの成長が目に見えるようになり、そうした姿は、自分自身を高める良い刺激になっています。活動の中でわからないことや悩むことがあれば、研修会やスーパーバイザーに質問し、自分では気づかない面や、知らない知識面をサポートしてもらっています。こうした経験を自分自身のこれからの勉強にも生かしていきたいと思っています。



網戸の張替えを行う大学生

実施
状況

十津川村谷瀬集落にある空き家を活用して、集落住民の交流の場や滞在型交流体験の場を創ることで、将来的な地域への移住促進につなげる活動を展開しました。

空き古民家の実測図面の作成から始め、棟梁の指導のもと、建物の改修作

優秀賞

県内大学生が創る

奈良の集落活性化事業

政策提案名（かえろうら！十津川「空き家のDIY改修&活用プロジェクト」）



「こやすば」を活用した写真展

業を行い、滞在型交流体験住宅を整備しました。また、集落内の「ゆつくり散歩道」を楽しく歩けるように、案内看板づくりに取り組みました。空き古民家を活用した来訪者の憩いの場「こやすば」では、谷瀬の暮らしを紹介する写真展を開催し、観光客に谷瀬集落への理解を深めていただきました。

大学生
からの声

森 里沙

奈良女子大学大学院
人間文化研究科博士
前期課程住環境学
専攻2年

私たちは、十津川村谷瀬集落にある空き家の改修と活用、そして「村暮らし体験」を通じて、今後の地域づくりへの更なる活力を創出することを目指して、この事業を提案しました。事業が進み出した今年度は、私たち学生にとって初めての作業が多く、大変ながらも成長できた1年でした。

企画したワークショップでは、集落の方々のご協力をいただきながら、DIY体験と「村暮らし体験」を実施し、集落の暮らしの魅力を再確認することができ、集落の皆さんの温かさにも触れることができました。また、空き家の改修と「ゆつくり散歩道」の看板づくりの過程に「から携われたことを大変嬉しく思います。奈良女子大学の学生と奈良県立大学の学生で情報共有に努めたことで、学生全員が積極的に事業の実施に携われたと思います。

事業の企画から実施までたくさんの方々にご協力いただきました。この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。

これまでの受賞政策提案一覧

平成24年度から始まった「県内大学生が創る奈良の未来事業」は、平成24年度は27提案、平成25年度は13提案、平成26年度は20提案、平成27年度は18提案、平成28年度は23提案の応募がありました。審査の結果、最優秀賞、優秀賞を受賞した政策提案は以下のとおりです。

提案年度	賞	政策提案名	提案者
平成28年度	最優秀賞	農地の窓口	近畿大学農学部農業生産科学科3年 中井 隆教 他2名
	優秀賞	Sight Feeling NARA 感じてみつけ! あなたの奈良 魅力再発見プロジェクト	奈良女子大学大学院人間文化研究科住環境学専攻1年 金村 麗華 他5名
		女子大塾 ～女子大生による県南部学習支援～	奈良女子大学生生活環境学部住環境学科4回生 小澤 初葵 他5名
平成27年度	最優秀賞	緊急課題!奈良の将来の医療をつくる多職種医療学生の集い	奈良県立医科大学医学部医学科6年 峯 昌啓 他8名
		女子大生ハンティングサークル (狩りガール)	奈良女子大学大学院人間文化研究科博士前期課程 住環境学専攻1年 竹村 優希 他6名
	優秀賞	不登校の子どもたちに大学生ができること ～大学間の垣根を越えて～	帝塚山大学大学院心理科学研究科心理科学専攻2年 酒井 希恵 他9名
		かえろうら!十津川 ～空き家のDIY改修&活用プロジェクト～	奈良女子大学大学院人間文化研究科博士前期課程 住環境学専攻1年 森 里沙 他9名
平成26年度	最優秀賞	楽しく健康!健康(けんぎょう) 農業で遊休地を有効活用	奈良女子大学大学院人間文化研究科博士前期課程 住環境学専攻1年 土佐野 美裕 他5名
	優秀賞	無病促菜 ～野菜パワーで元気100%な奈良県へ!～	帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科3回生 高瀬 美桜 他9名
		奈良栄養クリニック設立計画	奈良女子大学生生活環境学部・食物栄養学科4年 祝迫 景子 他4名
		萃点を灯す ～春日奥山から未来への文化継承の地	奈良女子大学大学院人間文化研究科住環境学専攻 2年生 大石 茉由佳 他2名
平成25年度	最優秀賞	科学の旅ーシーズンフリーの ワンストップサイエンスツーリズムー	奈良教育大学教育学部・学校教員養成課程・理数生活 科学コース4回生 荻 奈津希 他5名
	優秀賞	自然の恵みリスタート事業	奈良女子大学大学院人間文化研究科博士前期課程1年 住環境学専攻 濱川 真衣 他4名
		大学生がつくる幼児のための スポーツイベント	奈良教育大学教育学部・保健体育専修3回生 赤木 誠五 他2名
平成24年度	最優秀賞	泊ってみ奈良? ー町屋ステイで奈良を知るー	奈良県立大学地域創造学部1年 横田 紘大 他8名
	優秀賞	奈良県産材製の児童用 学習机・椅子・教卓の普及	奈良女子大学生生活環境学部住環境学科4回生 笹川 祐里 他3名
		Meet 20s' 絆 プロジェクト ー20歳の若者の出会いで絆をつくる	帝塚山大学経営情報学部経営情報学科3年 森崎 直人 他7名

「県内大学生が創る奈良の未来事業」ジャーナル

平成29年3月発行

奈良県 総務部知事公室 政策推進課

〒630-8501 奈良市登大路町30 TEL 0742-27-8472